

藤塚地区にぎわいづくり検討会 第3回 議事録【概要版】

日 時：令和4年9月8日 14:00～15:30

場 所：みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター 講義室

出席委員：宮原委員、今崎委員、櫻井委員、宍戸委員、東海林委員、平間委員、平舘委員、奥山委員、川邊委員

事務局：公園整備課長、若林区海浜エリア活性化企画室長、宮城野区まちづくり推進部海浜エリア活性化担当課長、名取市商工観光課

司 会：公園整備課主幹兼建設係長

1. 開会	司会(事務局)あいさつ (進行座長)
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座長よりあいさつ。 ・ 会議の成立・非成立：11名のうち9名参加により成立 ・ 議事録署名人の指名：宮原座長、宍戸委員
2. 議事	<p>議題 (1) 第2回検討会での意見と今後の方針</p> <p>議題 (2) ゾーニングイメージ図</p> <p>事務局より説明</p>
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回検討会でいただいた意見をそれぞれのテーマ別に整理し、さらに現時点での公園内のゾーニングイメージやパース図、専門家の意見を踏まえた井土浦の位置づけについて整理いただいた。皆様のご意見、ご提案をいただきたい。
平間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回検討会では、アクアイグニスとの連携について様々なご意見をいただいた。それを踏まえて、お配りした資料にある岐阜県の全天候型の木造遊戯施設をご紹介します。 ・ 統計を取ったところ、外で快適に過ごせる日数は平均で年間約100日ということだが、岐阜県の施設は残りの三分の二を有意義に過ごすことに着目した施設である。 ・ アクアイグニスも天候に大きく左右されながら営業してきた。全天候型、ファミリー向けの施設が裏手にできることで、アクアイグニスとの親和性も非常に高いと考えている。 ・ 本施設は岐阜県の家族おでかけランキングで、10位までに4施設が入っており、最もにぎわったのが台風の期間であった。天気の良い日はフリスビー等を貸し出して外で遊び、天気の悪い日は屋内で遊ぶことができる施設となっている。 ・ この施設の最大の特徴は、行政による公募で選ばれた民間事業者が整備をし、引渡しを行った後に民間で管理・運営を行うPark-PFI制度を利用していることであり、藤塚でも同様の手法をとることで、仙台市の整備する公園と民間事業者が上手く融合していけるのではないかと思います。 ・ 岐阜県でのケースでは県内産の木材を多く取り入れており、藤塚でも同

	様に県内産、東北産の木材を使用することで、ネイチャーゾーンのコンセプトから大きくは外れないと考えている。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内産の木造施設を造る場合、国などの補助金は期待できるか。
平間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設によっては、そのような側面があると聞いている。今後岐阜県の施設を視察する予定。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算の問題があるので、補助金の活用は重要な課題と捉えている。
東海林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供が自由に走り回って遊べる場所が必要ではないか。 ・ これまで藤塚地区をずっと見てきたが、護岸を整備してもすぐに老朽化してしまい、何度も改修工事をしてきたのを見ている。維持管理含め、先を見越して整備してほしい。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川側のパース図では拠点施設と側道が平坦になっているが、造成するということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ かわまちづくり事業の中で、側帯整備としてこのエリアを盛土してスペースを確保することを想定している。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の近くではなく、拠点施設の近くにトイレがあった方が、民間事業者による清掃料等、全体的なコストが抑えられるのではないか。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点施設が閉まってもトイレだけは常時使えるようなやり方も考えられる。また、公園側のトイレの位置についても今後検討していく。櫻井委員からいただいたご意見も参考にしていきたい。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名取市側の貞山運河はセメントだらけで自然がないが、藤塚は自然環境が残っており、良い環境であると思う。かつてあった貞山運河に案内板などが津波で流されてしまったため、藤塚や貞山運河の歴史などがわかる案内看板の設置も検討してほしい。
東海林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ パース図の拠点施設が建っている場所は現在民地であるが、買収は済んでいるのか。
宇佐美専門調査官 (仙台河川国道事務所)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民地であることは認識している。かわまちづくりや公園事業が始まった場合には、用地の取得も考えたい。
今崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舟溜まりに浮棧橋は整備しないのか。
宇佐美専門調査官 (仙台河川国道事務所)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舟運、カヌー、SUPに関しては現在パース図のようなものを想定している。実際の形状については利用者の意見を伺いながら、使いやすい施設を計画していく。
穴戸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウナギ漁の許可が貞山運河に移った場合、放流事業をする予定にもなっており、その際に子供たちが関われたりできるのではと考えている。
平舘委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さまのご意見をいただき、なるべくご要望に添えるような整備をしていくが、舟運やカヌー、SUPのエリアについてどの程度の利活用を考えているのか。貞山運河水門までは国交省管理であるが、その先は県管轄も入ってくるので、将来的な利活用を考える場合、その範囲について議論をする必要がある。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は藤塚という限られたエリアでの議論であるが、貞山運河全体や

	<p>仙台市東部地区の整備を面として検討する中で、藤塚から意見を発信することが望ましい。</p>
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貞山運河ネットから、県知事と仙台市長宛に貞山運河のがれき処理について要望書を出している。県と市で協力して早急に対応してほしい。
大宮係長 (名取市商工観光課)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車道から公園や拠点施設へアクセスしやすく整備してほしい。現在は、一度自転車道に入ると深沼まで抜け出せない。既存のスロープはあるが、自転車で利用しやすいように整備してほしい。
奥山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤塚は貞山運河、井土浦などの自然があり、改めて貴重なエリアであると認識した。 ・ 大勢のお客様をお迎えしたい一方で、大勢の人が来た場合、その地域に馴染まないのではないかと。今ある自然をネイチャーゾーンとして上手に利用し、拠点施設についても訪れた方々が自然に溶け込むような落ち着いた空間としてほしい。
川邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若林区、宮城野区では海浜エリア全体のビジョンとして、貞山運河が最大の資源の一つと考えており、これをエリアのにぎわいづくりにどう生かしていくかが、大きな課題である。 ・ 仙台市には、かつて藤塚をはじめ井土や荒浜、岡田地区の貞山運河沿いに船着き場を整備する計画があったが、個人的にはこれらを整備できればいいと考えている。さらには、リレー形式であれば、貞山運河の南北をとおして全体がつながればなお良い。 ・ これら事業には国の支援が必要であるほか、民間事業者の参入を前提とするものであることから、これを促す仕掛けづくりが重要であり、これらの情報を外に発信・アピールしていくこと等の工夫が必要である。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> ・ かわまちづくりも公園整備もPark-PFI制度等を利用し、行政だけでなく民間事業者の力を借りながら進めていくことを考えている。 ・ 第4回検討会ではパース図等が公表となることから、今回は様々なご意見をいただき、その意見を基に内部で検討していきたい。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国営ひたち海浜公園では、シーサイドトレインを整備し、園内に広大に広がる花畑の中を運行している。藤塚でも季節ごとに来訪者に花のある風景を楽しんでもらい、写真撮影や発信を進めてもらってはどうか。震災のメモリアルや鎮魂の場所としての位置付けにもなる。藤塚のシンボルとして大きな藤棚を設置するのも良い。空港の離発着時にも花畑が見えるのでは。 ・ 園路にはレールを整備せずに園内を周遊できるシーサイドトレインを通して、花壇を眺めながら貞山運河とアクアイグニスと結べるようにするのはどうか。 ・ 自然ふれあいゾーンや避難の丘の斜面に花畑が整備できるのでは。 ・ 自然継承ゾーンの海岸防災林整備時のアップダウンを利用した、マウンテンバイク用のトレーニングコース整備についても提案したい。練習場なので長時間滞在してもらえ、小さいお子様も利用できる ・ 東谷地ではボードウォークでの観察路や途中に展望やぐらを設置する

	<p>など、井土浦や東谷地を観察できる仕掛けがほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平間委員提案の木造遊戯施設については賛成。どんな天気でも子供がのびのび遊べる場所を作ることができ、貞山運河全体の連続性を考えても問題ないと思う。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閑上で花火大会を開催し、名取市側で6万人以上、仙台市（アクアイグニス）側で2～3万人が来場していたと思われる。今後も花火が見えるように整備してほしい。 ・ 民間事業者が参入したくなるような仕掛けがあると良い。 ・ 「親子でカヤックツアー」を開催した際には、24組の枠に2日間で850組の応募があったことから、親水性・水に親しむことへの需要が高いことが分かる。 ・ 仙台観光国際協会にも議論に参加していただき、その都度情報発信を行っていただきたい。 ・ 自転車道が名取川で寸断されており、閑上大橋の通行も危険であることから、閑上と藤塚を吊り橋で横断させてほしい。自転車道が繋がれば、片道50km、往復100kmとなり、100kmのロードレースとなると多くの参加者が訪れる。つり橋をライトアップできれば、アクアイグニスやかかわまちてらすの夜の集客が見込める。
平間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当地域は冬季に非常に風が強く厳しい気候となるため、集客について懸念している。パース図をみるとシーズン型にみえることから、オールシーズン型で冬季でも集客できる公園整備を検討してほしい。 ・ 白石川のマウンテンバイクパークはプロのライダーが設計している。 ・ 海岸防災林にマウンテンバイクパークを当てはめられないかと、検討会冒頭から考えていた。
平舘委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白石川河川敷のマウンテンバイクパークは、大河原町がクラウドファンディングを利用しており、行政の負担を少なくできている。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍となり、自転車やカヌーといったアクティビティなど、より自然に近づきたい、体を動かして楽しみたいというニーズが年々強くなっているように感じている。ほかにも自然学習や屋内で子供が遊べる施設、サイクリング施設、歴史を感じられる施設など、様々なニーズに即した公園整備を進めていければよいと思う。 ・ 貞山運河の水辺ゾーンでも季節ごとに楽しみたい方がいると思うので、その人たちが利用できるプログラムをどう整備していくかということも大事である。 ・ 今回貴重な意見をいただいたので、第4回の検討会に向けて意見を事務局にまとめてもらい、次回の議論につなげていきたい。
3. 閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司会あいさつ ・ 次回の第4回検討会は10月下旬を予定。
	(閉会)